

モノにカネをつぎ込まないミニマリストが増えている 重要なのはコト？

生活に本当に必要なモノはどれだけあるだろう。身の回りにあるモノを眺めてみると、「要る」「要らない」「たまには必要」が見えてくる。要るモノは頻度高く使用するモノであり、身の回りに置いておくことが多い。いらぬモノはその逆であり、どこか目が付かないところにしまい込まれている。その結果、あることすら認識ができないことになり、結果的には忘れ去られる運命にある。

よく使用するモノは、価格の安いモノから高いモノまでさまざまである。安いからといっても非常に重宝するモノも多い。逆に高価ではあるが、その使用頻度が極端に少なく、結果的にその存在が忘れ去られるモノもある。最近とみに見なくなった晴れ着もこの類に入る。

新聞記事に言うミニマリストとは、このあたりの事情を合理的に解釈し具体的に実行できる人だろう。自分にとって何が重要かをわきまえている。そして、必要なモノだけを身近におくことになるが、極限まで行くと記事にあるような形になる。

日本経済新聞 2020.1.9



モノよりも経験を優先しフィリピンに移り住んだ佐々木典士さん
(19年12月)＝小笠原之樹撮影

逆境の資本主義

—8—

うつろう欲望 どうつかむ

縮む消費、ミニマリズム

米国の経済学者、ソイス・テイン・ウェブレは1899年の著作「有閑階級の理論」で、資本主義経済における消費の原動力は人々の見栄や羨望にあると説いた。工業化が進むと、高級品を肩並べひらかすための誇示的消費が増えるという。だがいま、若者たちはモノを持たない質素な生活を選ぶ始めている。「モノや家に縛られずに暮らしたい」。青く空を渡る海が広がるフィリピン中部のドゥマゲテ。昨年9月に日本から移り住んだ佐々木典士さん(40)の引越した荷物(左)は、2つのスーツケース(右)に収められた。いまの主なお

消費がしぼみ、成長は停滞する。米ミニマリストの草分け、ジョシニア・ベツカー氏は「ミニマリストも欲望の総量は変わらない」と言い切る。欲望の芽先が変わったのだという。東京都内の会員制飲食店「ミニマリスト」が台頭している。けん引役は1980年ごろから2000年にかけて生まれたミレニアル世代だ。世間で約3億人に上り、総人口の4分の1を占める。

既存産業に打撃

コンサルティング大手のデロイトによると、ミレニアル世代の人生の目標は「世界を旅する」が10%と最も高く、「自宅購入する」(49%)などお金やモノへの欲求を上回った。資本主義経済の成長を支えた大量生産・大量消費の時代に代わるのは意識の変化だけではない。デジタル技術の台頭でシェアリングエコノミーや個人間取引が容易になり、モノを持つ必要性が薄れている。自動車ではシェアリングカーが台頭すると、乗用車販売が2台減るとされ、20年後には世界の新車販売を200万台下押しするとの試算がある。個人間取引の影響も大きい。ニッセイ基礎研究所によると、日本の家庭に眠る未用品の総額は37兆円。市場に出回れば、新品需要が縮むかねない。

総量は変わらず

デジタルを使いこなし、モノの所有欲が強いミレニアルが存在感を均すほど

スマートフォンでQRコードを読み込むと動画やデータを感じ取り込める。詳細版をご覧ください。

モノがない時代は、モノを所有していることがステータスであった。人が持っていないモノを私が持っていることがステータスであった。しかし今のようにモノがあふれる時代においては、その気になれば誰でもある程度のモノならば手に入れることができるようになった。

た。また、大概のモノであればリースなりシェアリングでその利便性を利用できるようになった。世の中に借りられないモノはあるだろうか。シェアリングできないモノはあるだろうか。心の中ではついつい何がシェアリングできるかを極限まで考えてしまう。

自分の描いた人生を生きるために何が必要か。手許に必要なモノは何で、シェアリングできるモノは何か。そして以前は手元に必要であったがその役割を終えたモノは何か。モノと比べられるのがコトである。コトについては、計画的にいつ、どのように資金を投入するか。自分自身のマネジメントが問われる世の中となった。すべてが自己責任である。

ミニマリスト (Wikipedia)

最低限度の物だけを持って生活するライフスタイル

「断捨離」を参照

断捨離は、「もったいない」という固定観念に凝り固まってしまった心を、ヨーガの行法である断行（だんぎょう）・捨行（しゃぎょう）・離行（りぎょう）を応用し、

断：入ってくるいらぬ物を断つ。

捨：家にずっとあるいらぬ物を捨てる。

離：物への執着から離れる。

として不要な物を断ち、捨てることで、物への執着から離れ、自身で作り出している重荷からの解放を図り、身軽で快適な生活と人生を手に入れることが目的である。ヨーガの行法が元になっている為、単なる片付けとは異なるものとされている。

ヨーガ (梵: योग (Yoga_pronunciation.ogg 聞く), yoga) は、古代インド発祥の伝統的な宗教的行法で、心身を鍛錬によって制御し、精神を統一して古代インドの人生究極の目標である輪廻からの「解脱 (モークシャ)」に至ろうとするものである。

他にこのようなミニマリストもある・

ミニマリスト (英語表記) minimalist (コトバンク)

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説

最小限綱領派と訳す。最小限度の要求を掲げる社会主義者の一派をいう。かつてロシア社会革命党内の妥協的な穏健分子がこう呼ばれた。またこの反対にすべてを要求し、決して妥協しようとしぬ一派がマキシマリスト maximalist (最大限綱領派) と呼ばれた。